

ユニセフ（国際連合児童基金）は、子どもたちの命と健康を守るために、世界190の国と地域で活動する国連機関です。世界のすべての子どもたちが、十分なケアを受けながら心身ともに健やかに成長できるよう、保健、栄養、水と衛生、教育などの支援事業、迅速な緊急支援活動、政策提言（アドボカシー）活動を行っています。

1. 子どもの命と成長、そして未来を守る・・・主に予防可能な原因で命を失う5歳未満の子ども、年間560万人
2. すべての子どもに教育を・・・・・・・・・・初等教育さえ受けられない子ども、5,700万人
3. エイズと闘う・・・・・・・・・・エイズで親を亡くした子ども、1,330万人
4. 暴力、搾取、虐待から子どもを守る・・・厳しい労働に苦しむ子ども、1億6,800万人
5. 子どもの権利を実現するための政策の実現やパートナーシップの構築・・・各国政府への働きかけを行います



安田菜津紀さん プロフィール

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE 所属フォトジャーナリスト。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとして、カンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。

現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。「HIV と共に生まれるーウガンダのエイズ孤児たちー」で第8回名取洋之助写真賞受賞。写真絵本に『それでも、海へ 陸前高田に生きる』（ポプラ社）、著書に『君とまた、あの場所へ シリア難民の明日』（新潮社）。『写真で伝える仕事ー世界の子もたちと向き合ってー』（日本写真企画）。

上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

「置き去りにしない」こと・・・難民問題や被災地の復興、世界が抱えるあらゆることは、多くの人々にまず認識をされない限り、社会の中で“問題”として扱われません。けれどもほとんどの場合、その“問題”を抱えた人々は、自ら声を出せない立場にあります。テレビや新聞などの大きなメディアのように、一度の多くの人々に伝えることは難しいかもしれません。ただ、細くても長くその場におもむき続けることが、私たちの仕事で問われることのひとつ、「置き去りにしない」につながっていると思います。

・・・「写真で伝える仕事～世界の子もたちと向き合って～」より抜粋・・・



安田菜津紀さんの著書

お申し込みは、ハガキ・ファックス・電話・メールにてお願いします。締め切りは4月30日、申し込み多数の場合は抽選、当選者に「参加券」をお送りいたします。募集定員に達しない場合は、締め切り後も受け付けを継続いたします。

- ◆E-mail アドレス：sn.municef_miyagi@todock.jp
- ◆電話：080-5849-6072（ユニセフ 五十嵐）

開催会場： **仙台市シルバーセンター 交流ホール**

・・・東北電子専門学校隣の建物・・・

仙台市青葉区花京院 1-3-2 Tel 022-215-3191

・JR 仙台駅より徒歩 8 分

・地下鉄「仙台駅」あるいは「広瀬通駅」より徒歩 8 分

◆◆◆ 公共交通機関でおいでください ◆◆◆

6/9 ユニセフのつどい 2018 参加申し込み FAX 022-218-3663

お名前 _____ 参加人数 _____ 名

ご住所 〒 _____

電話 _____ 切り離さずこのままファックス送信してください

ご記入の情報は「ユニセフのつどい」参加者把握のために使用します